i report
No.121
国土交通省東北地方整備局
岩手河川国道事務所一関出張所
一関市狐禅寺字石ノ瀬155-81
Tel:0191-23-2435
Fax：0191-23-6841
ichinoseki report 2013.2.22

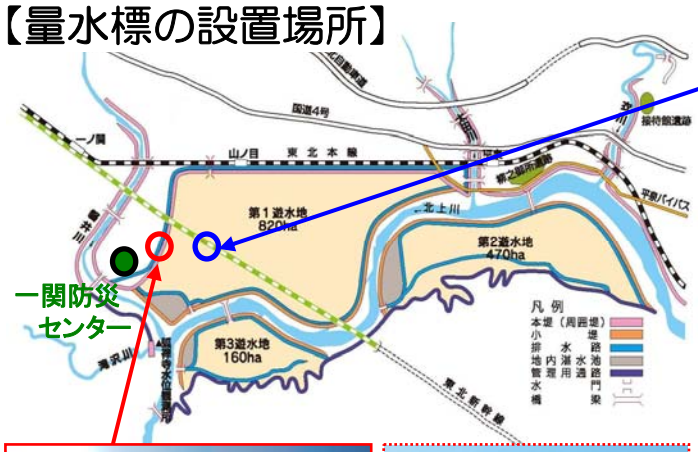
新幹線橋梁に量水標を設置。

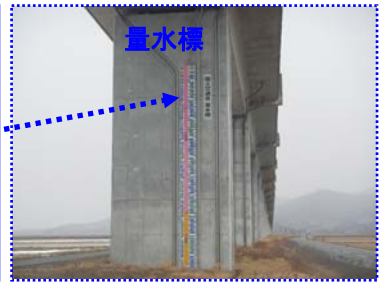
中里陸こう付近の新幹線高架橋の橋脚に高さ約10mある量水標を新規に設置しました。

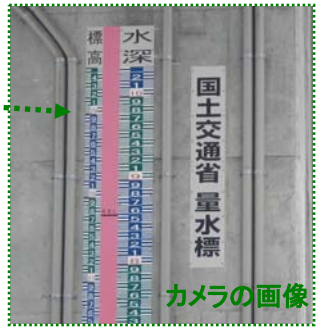
これまでは洪水により遊水地内に浸水した場合、実際に水深がどれ位あるか目視で確認する施設がありませんでしたが、この量水標を設置したことで、現地の他、遠方監視カメラで一関防災センター内にある一関遊水地集中管理センターでも水深を確認することが出来るようになりました。

これにより「より的確な陸こうの操作判断」や「遊水地内の避難誘導」等が可能となります。

【量水標の設置場所】







↑この量水標を設置したことにより、中里陸こうに設置してある遠方監視カメラを一関遊水地集中管理センターで操作し、水深を確認することができるようになりました。

遊水地に珍鳥が飛来!!

一関遊水地（第3遊水地）で、一関市内では珍しい渡り鳥を巡視で確認しましたのでご紹介します!!

この渡り鳥は、1月29日(火)に「河川環境についての巡視(※)」を行った際に河川巡視員が確認したもので、遊水地内で見られる「マガン」に似ているが過去の調査では確認したことがなかったため、調べてみたところ環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている「ヒシクイ」という鳥ではないか？と出張所内で話題となりました。

そこで真偽を確かめるため、下の写真を岩手県河川環境アドバイザーをされているNPO法人はずみの里の千葉裕理事長に見て頂いたところ「真ん中の鳥はヒシクイである。」と確認頂きました。

千葉理事長のお話によると、一関市内で確認できるのは珍しく、宮城県の伊豆沼から遊水地まで田んぼの落ち穂を求めて飛来してきたようです!!

※河川管理者は、河川環境調査の1項目として河川及びその周辺の鳥類等の生態に著しい変化がないかを調査しています。

↑絶滅危惧Ⅱ類に分類される「ヒシクイ」マガンによく似ているがマガンより大きく（約85cm）、クチバシの大部分が黒くて先端が黄色いのが特徴です。

岩手県環境アドバイザー
ＮＰＯ法人はずみの里 千葉裕理事長のお話

『ヒシクイは春から夏は北欧やシベリア地方全域で繁殖し、冬鳥として日本に渡ってくる。局所的な渡来の仕方をし、宮城県の伊豆沼、新潟県や石川県の湖沼等では群れがみられる。広い水田や湖沼などで、落ち穂・水草やその根などを採食するため、一関市内で観察される個体は、伊豆沼周辺に渡ってきた個体が、一関遊水地内に餌を求めて飛来したものと思われる。したがって、市内では数年に1回程度の観察頻度となることが多い。』